

令和7年度「学校評価結果報告書」

学校法人 三宝学園
三宝幼稚園

当園ではこの度、令和7年度の幼稚園学校評価として、教職員自己評価を実施いたしました。教職員一人ひとりが、自らの教育活動や園運営の状況を振り返ることで、自身や園全体を見つめ直すいい機会となりました。

また、それぞれの評価結果について、皆で話し合うことにより、成果や今後の課題、改善の方向性などを明らかにすることができました。この評価の結果を深く受けとめ、更なる教育活動の充実、教育環境の整備、教職員の資質向上に努めてまいります。

I. 教育目標

当園は、仏教の知性と慈愛のもとに、幼児に良き教育環境を与え、明るく、のびのびと楽しい体験を通じて、社会に生命を生かす、自主的精神に充ちた心身共に、健やかな人間完成をめざし、仏の心として愛育助長したいと念うものです。

1. 元気なつよい子ども
幼児の心身の調和的な発達を図り、健全な心身の基礎を養う
2. きまりを守れる子ども
基本的、生活習慣と正しい社会的態度を育成し、豊かな情操を養い、道徳的芽生えをつちかう
3. のびのびとした創造性豊かな子ども
のびのびとした表現活動を通じて、創造性を豊かにする

II. 今年度の重点目標

●教職員の資質向上 ●安全管理体制の充実 ●保護者への発信 ●長時間保育の検討

III. 評価項目と取組み状況

評価項目		取組み内容	a	
1	教職員の資質向上	オンライン研修が増え「実体験」が少ない状況下での学びを創意工夫し、子どもたちへの声かけや保育の流れに取り入れて、日常保育に活かしていく。	A	研修（オンライン・夏季研修・外部研修）に参加し、受講者が内容を職員間で共有することで園全体の知識・理解を高め、日常保育に反映できた。特に発達支援が必要な子への対応や環境設定の学びを保育・保護者対応に取り入れられた。 運営側も必要な研修を見極めて受講し、園内勉強会として展開する流れができつつある。
2	安全管理体制の充実	安全な園生活を提供するため、点検項目の見直しを行い定期点検を引き続き励行していく。	A	遊具や施設の定期点検を行い、破損・危険箇所を早期に発見・共有できた。 子どもの動線を確認して転倒・衝突につながりやすい環境を改善し、遊びの中の危険も意識して見守り、気づきを職員間で声掛け・共有する体制ができた。
3		緊急時のマニュアル等を再確認のうえ整備し、地域との連携を図った訓練を試みていく。加えて消防署等の実地訓練や不審者対応訓練も実施していく。	A	毎月の避難訓練（地震・火事）を全園で実施し、スムーズに避難できるよう繰り返し訓練した。年1回は消防署と連携した実地訓練・消防車来園を行い、子どもが興味を持てる体験型・動画視聴型の訓練も取り入れた。 マニュアルは年度初めに共有し各教室に常備して、いつでも確認できるようにした。

令和7年度「学校評価結果報告書」

学校法人 三宝学園
三宝幼稚園

評価項目		取組み内容	取組み状況	
4	保護者への発信	保護者の共通理解を得ていくため、園の法人やねらい等を分かりやすく伝えることを常に心掛けていく。	A	アプリ・園だより・行事のお知らせ・インスタグラム・HPなど複数の手段で、日々の様子や保育内容を写真や文章で発信し、保護者との共通理解と連絡の取りやすさが向上した。 送迎時の会話や成長の共有を通じて、信頼関係づくりや保護者の安心にもつながられた。
5	長時間保育の検討	人員確保等の職員負担軽減をはかりつつ、保護者ニーズに応え、保護者の安心感につながる、子どもを預けやすい環境を提供していく。	S	フリーや延長保育の担当職員を新たに配置・雇用したことで、急な欠勤対応が可能になり、職員の負担軽減と帰宅時間の短縮につながった。 日中と同じ保育者が延長も担当し、長期休みも含めて預かり保育を実施することで、子ども・保護者ともに安心して預けやすい環境を整えられた。

【評価の基準】

S	十分達成されている
A	達成されている
B	取組まれているが、成果が十分でない
C	取り組みが不十分である

IV. 今後取り組むべき課題

1	教職員の資質向上	研修参加の機会を増やし、内容も多様化（職員が別々の研修に分かれて参加）して情報交換の幅を広げる。学んだ内容を職員間でさらに共有し、子ども一人ひとりに合わせた関わり・環境づくりに反映させる。 担任も研修を受けられるよう、園全体で研修を重視する意識づくりが必要。
2	安全管理体制の充実	定期点検を継続し見落としを防ぐとともに、ヒヤリハット事例を活用して事故を未然に防ぐ。施設の老朽化（床など設備）への対応・更新を進める。 園生活に慣れて活動が活発になる子どもへの見守りを強化する。
3		未実施の不審者対応訓練の実施が必要。 あわせて、近隣の小学校と連携した避難訓練（避難場所の確保・移動の練習）、マニュアルの再確認、訓練の継続による職員間連携と子どもの防災意識向上を図ることが必要。
4	保護者への発信	外国籍家庭の増加に伴う言葉の壁への対策が必要。 発信した情報に気づいてもらいにくい・保護者が質問しにくい点を改善し、やりとりしやすい環境をつくる。
5	長時間保育の検討	長期休暇を含めて預かり保育を継続・拡充し、保護者が預けやすい環境を維持する。 職員同士の協力で安定した運営を続けつつ、延長保育中の「習い事」導入など付加価値の検討も進める。 一人ひとりの様子を保護者へ細かく伝える工夫も課題。

令和7年度「学校評価結果報告書」

学校法人 三宝学園
三宝幼稚園

V. 学校関係者の評価

教職員の資質向上

教職員が多くの研修に参加し、その成果を日々の保育に活かしている。研修で得た学びが実践に反映されていることが、保育の質の向上につながっている。また、教職員全員が互いに協力し合いながら、園児一人ひとりが安心して楽しく過ごせる環境づくりに努めている。

安全管理体制の充実

避難訓練について、継続的に実施されていることで園児が落ち着いて行動できるようになっている。定期的な訓練の積み重ねが、園児自身の防災意識を高めることにもつながっている。

熱中症対策についても、状況に応じて活動内容や実施場所を工夫し、安全を第一に対応している。

日常的な安全管理として、園内の消毒・清掃の徹底や、バス乗降時の複数人による確認体制など安全管理が十分に行われている。

保護者への発信

SNSやアプリを活用した迅速な情報発信、および各種申請手続きのスムーズなデジタル化を高く評価できる。ICTの活用が、保護者への伝達の速さと手続きの利便性の両面で成果を上げている。

また、行事等においてPTAと園が協力する機会が多く、今後も情報共有や意見交換を大切にしながらより良い連携につなげていくことが期待される。あわせて、家庭・地域・小学校との連携を大切に、園児一人ひとりの健やかな成長を支える教育活動を実施することや保護者・地域との双方向のコミュニケーションの継続・発展に期待する。

長時間保育の検討

早朝保育・延長保育の拡大や、長期休暇中の預かり日数の増加など、働く保護者のニーズに手厚く対応しており、園の努力のあとが見える。そのうえで、教職員の負担も考慮し子どもたちが安全・安心に過ごせる環境を維持するため、今後も継続的に実施されることをきたいする。

以上